

長野市民病院様

地域のがん診療の拠点病院として セキュリティ強化により最新の医療情報を活用



長野市民病院
Nagano Municipal Hospital

長野市民病院について

長野市民病院は、北信五岳を背に千曲川流域に広がる善光寺平（長野盆地）のほぼ中心に位置しており、空気が澄み渡る青空の日には、当院の病窓から北アルプスの槍ヶ岳が一望できるなど、信州の四季折々の自然を肌で感じることが出来る恵まれた環境にあります。平成7年6月に150床6診療科で開院し、増改築事業を経て平成20年4月から400床となり、平成21年7月からは28診療科で運営しています。

長野市民病院では、3大生活習慣病を主体とする高度先進医療を提供しておりますが、特に「がん」については厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、がんに関連した多数の有資格者を抱え、先進的で専門的なチーム医療を提供しています。また、「救急医療」については、長野医療圏北部の基幹病院として、ER型を志向した救急センター及び長野市医師会との協働による「長野市民病院・医師会急病センター」を開設し、休日夜間初期救急から2.5次救急に至るまで、24時間365日、長野市民の付託に応えています。

長野市民病院は、平成7年の開院後まもなく、医師・医療スタッフへに電子メールアドレスを割り当てるなど、医療現場の情報化に積極的に取り組んで来ました。医療機関の情報化に欠かせないのがセキュリティへの目配りですが、長野市民病院はこの点でも独自の取り組みを続け、セキュリティを確保しながらも病院スタッフの利便性を損なわないシステムを作り上げました。

開院後すぐに情報化への取り組みを開始

平成7年と言えば、1995年。Windows95発売の年です。インターネット時代の本格的な幕開けと共に開院した長野市民病院は、病院の情報化の最先端を走り続けて来ました。当時としては珍しかった、全職員へのメールアドレス付与、インターネットへの積極的な接続など、早くから他病院とは一線を画す取り組みを行ってきました。次期システム準備室副室長の高野与志哉氏によると、「当病院が、医師を含む全職員に個別のメールアドレスを割り当てた1995年当時、勤務医が個人のメールアドレスを持つことは非常にまれでした。この傾向は現在も一部の病院では残っています。」ということです。

意外に進んでいない医療現場のIT化

最先端の検査機器や電子カルテなど、コンピュータの塊にも見える近代病院ですが、意外なことも伺いました。現在ほとんどの病院に導入されている電子カルテシステムですが、セキュリティ上の懸念から、一般のインターネットには接続しないほうが良い、という「暗黙の了解」があるのだそうです。その結果、多くの病院では、医師の目の前にある電子カルテシステム（ハードウェアとしては普通のWindowsパソコンで、ネットワークにももちろん繋がっています）を使って、インターネット上の情報（論文や文献など）を検索することができません。診断のために、ちょっとした資料を調べたいこともあるはずなのですが、それが一番身近な端末からできない、ということです。もちろん、病院内では携帯電話は使えませんから、携帯で検索もできません。

長野市民病院では、医師が診察中に電子カルテの端末で、普通のブラウザを立ち上げて、普通に情報を検索することができます。一般の企業ではあたりまえのことですが、前述のような暗黙の了解のため、他の多くの病院ではこれができないというのです。ちょっと考えてみても、医師の目の前の端末から、電子カルテを参照・書き込みながら、別ウインドウで医療情報の検索ができるほうが便利に決まっています。なぜ長野市民病院では、他の病院でできないことができていたのでしょうか？

「暗黙の了解ができる前に、現在のシステムができあがっていたからです。」と、高野氏。「世の中でセキュリティが騒がれる前から、当院ではセキュリティに取り組んできました。暗黙の了解が無い頃から、自分で工夫をして、使いやすく、しかもセキュアな環境を構築していたのです。情報漏えい事故も起こっていません。今の環境を変える必要性は感じられないのです。」



長野市民病院
次期システム準備室副室長
高野 与志哉 氏

長野市民病院
副院長(消化器外科)
宗像 康博 氏



運用ルーム

増え続けるスパムへの対抗

副院長の宗像康博氏は、「医師はMacintoshユーザが多いので、90年代末以降のWindowsのウイルス騒ぎのときもあまり慌てずにすみました。しかし、スパムはMacもWindowsも関係ありません。ここ数年、どんどんスパムが増えてきて、仕事に必要なメールを取りこぼしたり、そもそもメールを読まなくなる医師も出て、なんとかしないといけないという話になったのです。」と、当時を振り返ります。

「カタログ通りの画面が出た」

病院の方針を受けてアンチスパムソリューションの検討を始めた高野氏ですが、「導入当時、アンチスパムはファイアウォールのオプションとして実装されている例が多かったです。しかし、私はアンチスパム専用の、しかもアプライアンスが良いと考えていました。パフォーマンスの高さや、OSのセキュリティを同時に確保できる点、運用管理が一元化できる点で有利だと思ったのです。」

そして高野氏が目をとめたのは、Proofpointのカタログに掲載されていた「スパムスコア」のグラフでした。Proofpointを含め、多くの製品は電子メールをスパムと判定するかどうかを、様々な手法で計算したスパムスコアを基に決定します。Proofpointのスパムスコアの分布は、他社と比べて圧倒的に正確に見えました。「これは本当かな、と思い、すぐに評価機を取り寄せて見たのです。」結果は、「カタログ通りでした。びっくりしました。」即座に導入を決めたそうです。

スパム検知率には不満なし

Proofpointを導入して、スパムがエンドユーザーに届くことはほとんど無くなりました。エンドユーザの代表といえる宗像氏が「そういうば最近来ないねえ。」というほど、スパムを意識することが無くなったようです。高野氏は、「Proofpointのおかげなんですが、みんな忘れてますね。」と苦笑しますが、全メールの7割を占めていたスパムが効果的に排除できていることは、確かなようです。

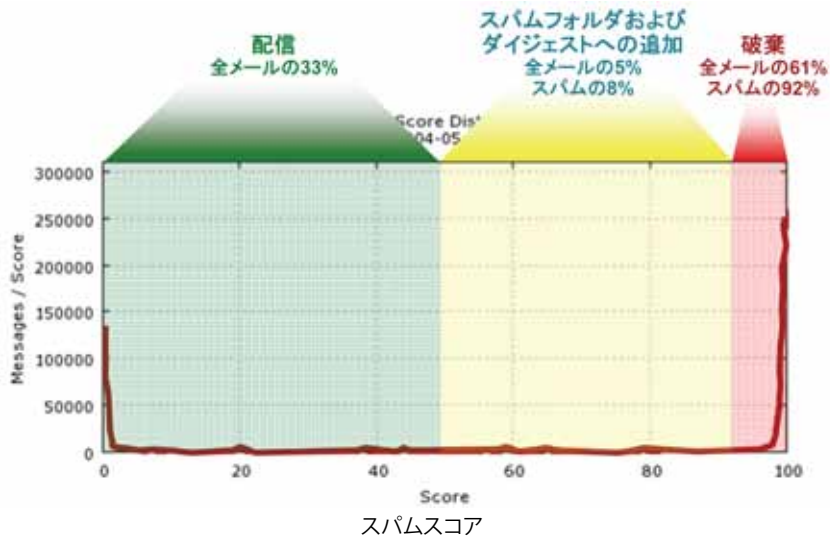
運用の簡単さは見込み通り

高野氏が導入前に考えたとおり、Proofpointのセキュリティアプライアンスの設置・運用は非常に簡単です。基本的な設定を行えば、あとはアプライアンスを接続するだけで運用を開始することができ、通常はチューニングなども行う必要はありません。アンチスパム用のシグネチャアップデートも全自動で行われるため、全くと言って良いほど手間がかかりません。自動アップデートという「機能」は、他のアプライアンスにもありますが、それによって本当に「手間いらず」なのかどうかは、シグネチャの品質やポリシーの精度などによる部分が大きく、Proofpointならではのメリットと言うことができます。

地域がん診療連携拠点病院に指定

長野市民病院では、平成7年の開院以来、重点的に取り組んできたがん診療に対する実績が評価され、平成19年1月に厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けましたが、期間の満了に伴い更新審査を受審し、平成22年3月に引き続き指定を受けています。

長野市民病院のがん診療の強みは、手術はもちろん、鏡視下手術や内視鏡手術をはじめとする低侵襲治療、放射線治療、化学療法、緩和ケアなどを駆使した切れ目のない集学的治療にあります。なかでも、緩和ケアについては、専門医を確保して、いわゆる「がん診療病棟」を開設し、緩和ケアチームのサポートによる専門治療を提供しているほか、緩和ケア内科外来や「緩和ケア・がん相談支援センター」による充実したフォローを行っています。



©2010 Proofpoint, Inc. Proofpoint Protection Server, Proofpoint Messaging Security Gateway, Proofpoint Spam Detection, Proofpoint Virus Protection, Proofpoint Digital Asset Security, Proofpoint Regulatory Compliance, Proofpoint MLX, Proofpoint Dynamic Reputation, および Proofpoint on Demand は、米国およびその他の国々における Proofpoint, Inc. の商標または登録商標です。この文書に含まれるその他のすべての商標はそれぞれの所有者の所有物です。

proofpoint™

お問い合わせ

日本プルーフポイント株式会社

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-2 ビュレックス麹町

TEL : 03-5210-3611, FAX : 03-5210-3615

Email : sales-japan@proofpoint.com

URL : http://www.proofpoint.co.jp